

# ほんのもり

中学年むき

平成28年7月6日発行  
発行・編集 熊取図書館  
編集・協力 学校図書館

( 年 組 名前 )

## 「おばけ屋さん①

これがおばけやさんのしごとです

おかべ りか／作  
偕成社

たもつは、親がわりのうさぎ、ポンポー・ミステリオーソと「おばけ屋さん」をやっています。「おばけ屋さん」とは、おばけを かしだすお店です。おばけが、おるすばんやおつかい、庭の草むしりから赤ちゃんのお世話まで、べんり屋のように何でもしてくれます。さて、今日はどんな仕事ができるのでしょうか？

つづきが6巻まであります。



## 「読書マラソン、チャンピオンはだれ？」

クラウディア・ミルズ／作  
堀川 理万子／絵  
文溪堂

小学3年生のケルシーは、本が大好き。ある日、校長先生が、読んだ本の数を書き、読書マラソンを行うと言いました。読書数全校一のクラスと、各クラスの読書チャンピオンには、すてきな「ごほうびつき」。また、全校生との読書数が2千さつをこえたら、校長先生が自まんのあごひげをそることも。そこでケルシーは、自分が

チャンピオンになれるようにがんばります。そして、クラスみんなにも、本をたくさん読んでもらいたいと思うのですが……。

## 「わすれものの森」

岡田 淳+浦川 良治／作  
BL出版



ツトムは、1週間前に なくしてしまった「たて笛」をさがしに、夜の学校へ行く。すると、サントスとニブラという、ナソの2人組に会い、「わすれものの森」のことを聞く。そこは、3日いじょう わすれられた「わすれもの」が行く場所だという。そこでツトムは、自分のたて笛を取りもどすため、2人に あん内をたのみ、森へと向かった。

## 「しろくまだって」

齊藤 洋／作  
高島 純／絵  
小峰書店

ラジオや本で人間の言葉をおぼえた、しろくまの兄弟カールとマルク。このまま岩山に住んでいては、もったいないと、人間の町へやってきて、しろくまマークの運送屋ではたらきはじめました。まわりの人たちは、そんな2ひきを、着ぬいぐるみを着た人間だと、かんちがい。やさしくて力もちのカールとマルクはすっかり町の人気者です。

☆シリーズに『やっぱりしろくま』、『いつでもしろくま』があります。



## 「ちやいろいつつみ紙のはなし」

アリソン・アトリー／作  
殿内 真帆／絵  
福音館書店

小さな新聞屋さんのたなの上に、ちやいろいつつみ紙が一まい住んでいました。たいくつつしていた つつみ紙は、クリスマスが近づいたある日、女の人を買われて、プレゼントをつつむために使われました。そして、「こづつみ」となった ちやいろいつつみ紙は、ぼうけんの旅へと出るのです。



ねこ  
「ゆうかなな猫ミランダ」  
エレナー・エスティス／作  
エドワード・アーディゾーニ／絵  
岩波書店

むかし、イタリアのローマに住むメス猫のミランダと子どものブンカは、クラウディアという女の子の家族と幸せに暮らしていました。ところがある日、ローマの町が「おそわれ、町じゅうの人が」にげ出してしまい、ミランダとブンカは取りのこされてしまいます。そこで2ひきは、同じように取りのこされた子猫 33 ひきとともに、この町で生きていくことにしました。古代ローマ時代の猫たちのぼうけん物語です。

「くろねこのロク空をとぶ」

インガ・ムーア／作・絵  
徳間書店

くろねこのロクは、くいしんぼうで、毎日6ひきの家からごはんをもらっています。ある日、かい主たちとスコットランドのいなかに出かけることになりました。そこでロクは、山ネコのスコットと出会います。ふたりは森の中で、おいしいものをさがしますが、町ねこのロクは、スコットのように、おいしいものを上手につかまえることができません。



おおてんく まるひょうかい  
「大天狗先生の秘妖怪学入門」  
富安 陽子／著  
山村 ヒデト／絵  
少年写真新聞社

大天狗先生の学校は、「おのれのことを学ぶ」つまり、自分は何者であるかを知るための学校です。生との3ひきの小天狗たちは、天狗は人間から「妖怪」とよばれているので、「妖怪とは何者か」について学ぶことになりました。みなさんも小天狗になったつもりで、妖怪のことをいっしょに学んでみませんか。



りく  
「光るいきもの 陸のいきもの」  
大場 裕一／著  
宮武 健仁／写真  
くもん出版

みなさんが思いうかべる「光るいきもの」って、ホタルだけでしょうか？実は、あまり知られていませんが、ミミズやムカデなどの中に、光るしゅるいのものがあるのです。めずらしい「光るいきもの」たちのことを見てみましょう。☆「光るいきもの」シリーズに、『海のいきもの』、『キノコ』があります。

「ハートのはっぱ かたばみ」

多田 多恵子／ぶん  
広野 多珂子／え  
福音館書店

かたばみの目じるしはハートの葉っぱ。小さなハート。三つのハートが集まって、これで一まいの葉っぱです。かむとすっぱい味がして、夜になると ぴっちり葉っぱをとじます。ふしぎな力を持っているかたばみ。おうちのまわりで さがしてみてね！



「さがして海ハカセ」全3巻

小林 安雅／文・写真  
偕成社

海の生きものは、何千何百ものしゅるいがいます。その中で、魚のなかま、貝のなかまなど、なかまさがしをしてみよう！海の生きものが かくれている場所やくらしについて、次々とクイズをといていったら、「海ハカセ」になれるかも？！



「調べてみよう名前のみみつ  
昆虫図鑑」

森上 信夫／写真・文  
汐文社

マイマイカブリの「マイマイ」や、テントウムシの「テントウ」って何のことか知っていますか？どんな虫にも名前がついていますが、その名前にはちゃんと意味があるのです。この本は、あんな虫こんな虫の名前のみみつを教えてください。

☆「調べてみよう名前のみみつ」シリーズに、「海の生きもの図鑑」、「どんぐり図鑑」、「雑草図鑑」があります。

「実験しよう！からだのなぜ」全3巻

坂井 建雄／監修  
斉藤 ふみ子・大関 直樹／文  
汐文社

自分の体を使って実験してみよう！体を使って、何だかキケンな感じがするけれど、きん肉、ほねなどのしくみを上手に使うことで、むずかしいこともカンタンにできてしまったり、反対に思うように動かなくなったりします。いろんな体のふしぎを体験してみてくださいね。



「透視絵図鑑なかみのしくみ」  
全4巻

こどもくらぶ／編さん  
六耀社

みなさんのまわりにある れいぞうこや せんたくき、大きな乗り物など、中がどんな風になっているのか、どんなしかけで動くのか知っていますか？分かることはできませんが、この本を見れば、いろいろなものがすきとおって見えているかのように、「なかみのしくみ」が わかりやすく書かれています。



「ようこそ！理科レストラン」全4巻

法政大学自然科学センター／監修  
文研出版

おいしいものを食べることはすきだけれど、どうしておいしくできているのかを考えたことはあるかな？「作る人が上手」、「ざいりょうがいい」という理由だけでなく、理科のむずかしい言葉でいう「ぎょうこ」や「はっこう」などという「変化」で、かたまったり、ふっくらおいしく できあがるのです。一度、料理をしながら、その様子をかんさつしてみてください！

「ちょこっとできるびっくり！工作」

全4巻

立花 愛子・佐々木 伸／著  
偕成社

「ストローのふしぎ工作」では、ストローのとくちょうを いかしてできる、プロペラ、ロケット、おりたたまロボットなど、気軽に作れて、楽しく遊べるおもちゃが全部で13しゅるい っています。それがいに、シリーズで「わゴム」、「せんたくばさみ」、「かいちゅうでんとう」を使った工作もあります。どれをつくってみようかなあと、見ていてワクワクする工作の本です。



「言葉図鑑」

にほんご・えいご・ポルトガルご・スペインご】1,2

五味 太郎／著  
偕成社

日本語、英語、ポルトガル語、スペイン語の4つの言葉で、いろいろなもの名前などが書かれています。たとえば、日本語の「顔」は、英語では「フェイス」、ポルトガル語では「カーラ」、スペイン語では「カラ」と言います。同じものでも、国が ちがえば、言葉も ちがうのですが、何だか にている言葉もあって、さがしてくらべてみるのもおもしろいかも。





## 「おどる詩あそび詩きこえる詩」

はせ みつこ／編  
飯野 和好／絵  
富山房インターナショナル

物語とちがって詩は、口に出して読んでみたくになります。“さわってみようかなあ つるつる おしてみようかなあゆらゆら”（谷川俊太郎『どきん』から）

ほら、口が動き出してみませんか？この本を作った はせ みつこさんも「あなたのすきにあそんでください」と言っているように、みなさんのお気に入りの詩をみつめて、声に出してみてください。

☆シリーズで、『しゃべる詩あそび詩きこえる詩』、『みえる詩あそび詩きこえる詩』があります。

## 「カボチャのなかにたねいくつ？」

マーガレット・マクナマラ／作  
G. プライアン・カラス／絵  
フレーベル館

学校の じゅぎょうの中で、大きさのちがう3つのカボチャの中に、たねがいくつ入っているのかを考えることになりました。そこで、チャーリーは、「カボチャの中からたねを取り出して調べてみては？」と言いました。さて、チャーリーが考えた方ほうで、カボチャのたねの数をかぞえてみると、何がわかったのでしょうか？自分で考えて、実さいにやってみると、わかった時の うれしさが、より大きくなることを 教えてくれる絵本です。



## 「アンドルーのひみつきち」

ドリス・バーン／文・絵  
岩波書店

アンドルーはものづくりが大好き。でも、家族のだれも相手にしてくれません。そこでアンドルーは、森のおくに自分だけの「ひみつきち」を作ることにしました。すると、次々と子どもたちがやってきて……。子どもだけで何かを作るって、何だか楽しそう！大人の力をかりずに がんばるアンドルーたちを、おうえんしたくなるかも。



## 「ぞうのホートンたまごをかえす」

ドクター・スースー／さく・え  
偕成社

なまけ鳥にたのまれて、木の上でたまごの世話をするようになったぞうのホートン。雨の日も雪の日も、ずっとたまごを温めつづけます。ほかの動物たちにわらわれ、ハンターにねらわれても、やくそくを守りぬきます。やっとたまごが かえるという時、なんとなまけ鳥が もどってきてしまい……。

つづきに、『ぞうのホートンひとだすけ』があります。

## 「まほうつかいバーバ・ヤガー」

ロシア民話  
松谷 さやか／再話  
ナタリー・バラン／絵  
福音館書店

むすめは、いじわるな新しいお母さんに、まほうつかいのバーバ・ヤガーの家におつかいに行くように言われます。しかし、バーバ・ヤガーが、自分を食べるつもりだと気づいたむすめは……。ロシアのかしこい女の子のおはなし。



## 「ミサコの被爆ピアノ」

ひばく  
松谷 みよ子／文  
木内 達朗／絵  
講談社

1945年8月6日、原子爆弾が落とされた日、広島島のミサコの家は きせきてきに のこりました。でも、大切にしてきたピアノは、たくさんのガラスが つきささったすがたになってしまいました。せんそうが終わって、きずついたピアノを はじめてひいた時に、ミサコが味わった、わすれられない感かく、調律師さんの手で、見事によみがえったピアノの音……。苦しみと悲しみをこえて、しずかな感動をよびおこす、本当にあったことをもとに書かれたお話。